

ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組
における撥音誤用分析

名前 : ディパヤナ・プルティウィ

学生番号 : 20120560003

要旨

インドネシアの発音と日本語の発音が違う。インドネシアの学習者にとって日本語の発音は難しく、特に撥音、はねるおん「ん」と言う発音が正しく言えない学習者がいる。コミュニケーションは発音が正しく言えなくても意味が分かる場合もあるが、発音が正しくいえなかったらコミュニケーション能力が良くなる。

本研究では **deskriptif** と誤用分析方法を使う。研究用具はテストとアンケートを使う。サンプルはジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組であり、21 人いる。サンプルは一人一人ですべて紙に書いてある言葉と文を読ませ、研究者は発音を録音した。

研究の結果は正しく発音と言えない原因は学習者は撥音、はねるおん「ん」という発音のタイプがまだ学習していない。そして、撥音のタイプの中で学習者にとって一番難しい撥音は[ŋ]と言う発音である。

キーワード : 誤用分析、日本語、発音、撥音

1. はじめに

a. 背景

言語はコミュニケーション、インフォメーションを伝えるため一番大切なことである。Chaer (1994)より Kridalaksana (1983)と Kentjono (1982)言語は大衆に [協力、コミュニケーション、身元] を使用することである。学習者は言語を学ぶとき [話す、書く、読む、聞く] 能力をあたなければならない。日本語の音は 7 つある。それは [母語、子音、半母音、促音、撥音、拗音、長音] がある。

Sutedi (2008:24)により撥音は 4 音のタイプがある。それは[m]、[n]、[N] と [ɲ]がある。特別な音があるため Karima (2014:74)により学習者は間違いに撥音、はねるおん「ん」を言う場合もある。学習者は[m]と[ng]しか言えないという結果があった。

研究者の経験により、間違い撥音、はねるおん「ん」を言ったことがある。「すもません」を言うとき、[sumimasen]ではなく[sumimaseN]を言ってしまった。そのため、撥音、はねるおん「ん」を研究したい。音声を教える(2009)により「間違った日本語を身につけてしまうと、あとから直すのが難しい。正確な日本語を身につけなければ、もっと上のレベルに進めない」と言う説明がある。なぜかと言うと正しい撥音、はねるおん「ん」で言えなければ誤解が生まれる可能性がある。

研究者はジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組における撥音誤用分析。

b. 問題設定

- a) ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組における撥音の誤用のタイプはどうあるか。
- b) ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組における撥音の誤用の原因は何か。

c. 研究の目的

- a) ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組における撥音のタイプを表れる誤用を探ること。
- b) ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 額年度 1 年生 A 組における撥音に誤用の原因を知ること。

2. 先行研究

Wahyuni (2009)の論文による、BLCI 学習者の発音を誤用分析を実施した。10回トリートメントでデータを探した。サンプルは4レベル学習者と6レベル学習者である。出席者の数は15人いる。結果は学習者は「長音、促音、とサ・シャ、ザ・ジャ、ヒョ・ヒヨ」がまだ話すことが出来ない。

次に、Wahyuni (2011)の研究の目的は SMKN 1 Katapang の学習者の発音はどうか、オーディオリンガルアプローチで効果的があるかを知るため、pra tes、7回トリートメントを、最後に postes を行い、結果はオーディオリンガルアプローチで日本語の発音自動の効果的があること分かって来た。ようするに、このアプローチで学習者に日本語発音を考えることが良い。

最後に、Karima (2014)、インドネシア教育学科の 1 年生から 4 年生まで撥音、はねるおん「ん」の能力を分析した。出席者の数は 40 人いる。この研究はテストとアンケートとインタビューを使用した。テストは 30 の言葉と 20 文があった。分析の結果、学習者は間違い発音を話した。学習者の能力が適度のカテゴリーであることが分かった。母語影響のため、学習者は[m]と[ng]を話しただけである。

これから、研究者はジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組における撥音誤用分析である。Karima と同じテーマを研究する。ジョグジャカルタムハマディヤ大学の学習者に撥音、はねるおん「ん」はどんな誤用があらわれるか、誤用の原因があるかを知るためである。本研究の結果で、誤用から分かって来て、どうか次の研究にどんな直す方法があるのかを上げるようにときたいする。

3. データおよび研究方法

本研究では deskriptif と誤用分析方法を使う。Deskriptif は問題を説明し、提案に与える(Sutedi, 2009:58)。本研究では、テストとアンケートの形を用具を使用する。

テストに研究者は 44 撥音、はねるおん「ん」の言葉を探す。テストは言葉と文の形である。言葉は「みんなの日本語初級 I 本冊、音声を教える、*Pengantar Linguistik Bahasa Jepang, Dasar-Dasar Linguistik Bahasa Jepang*」から、その下にテストの格子である。

図 1

テストの格子	質問の合計	言葉の質問のナンバー	文の質問のナンバー
[n]音	8	1, 12, 17, 23, 28	11, 12
[m]音	8	2, 7, 18, 30, 29	6, 7
[ɲ]音	8	3, 8, 13, 19, 24	9, 10
[ŋ]音	8	4, 9, 14, 20, 25	3, 4
[N]音	8	5, 10, 21, 26, 15	6, 8
[Ñ]音	8	6, 11, 16, 22, 27	1, 2

サンプルはジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組である。出席者の数は 21 人いる。2016 年 5 月 25 日 Unires の 8 クラスでサンプルは一人一人ですべて紙に書いてある言葉と文を読ませ、研究者は発音を録音した。録音した後、研究者はレコーダーを聞いて、学習者の撥音、はねるおん「ん」の発音を分析する。最後はまとめを書く。

アンケートから研究者は原因の間違いを探す。アンケートに 15 質問があった。録音した後はサンプルにアンケートを分割する。この下にアンケートの格子である。

図 2

アンケートの格子	質問の合計	ナンバー
日本語を勉強の背景	1	1
言語の能力背景	2	2, 3
日本語を聞く習慣	3	4, 5, 6

発音の能力背景	3	8, 9, 10
発音を勉強する経験	1	7
撥音、はねるおん「ん」を勉強する	4	12, 13, 14, 15

4. 分析の結果と考察

分析の結果は次のようにあとめる。

図 3. 言葉のテストの形の分析

音のタイプ	間違いの合計/ 言葉の合計	パーセント
[Ñ]音	98/105	93.33
[m]音	84/105	80
[n]音	31/105	29.52
[N]音	30/105	28.57
[ɲ]音	29/105	27.62
[ŋ]音	27/105	25.71

言葉のテストの形で一番高く言う撥音、はねるおん「ん」のタイプは [Ñ]音である。そして、間違いが一番低い撥音、はねるおん「ん」のタイプは [ŋ]音である。

図 4.文のテストの形の分析

音のタイプ	間違いの合計/ 質問の合計	パーセント
[Ń]音	42/42	100
[m]音	35/42	83.33
[N]音	25/42	59.52
[ŋ]音	15/42	35.71
[ɲ]音	11	26.19
[n]音	8	19.05

文のテストの形で間違いが一番高い撥音、はねるおん「ん」のタイプは[Ń]音である。そして、間違いが一番低い撥音、はねるおん「ン」のタイプは[n]音である。

言葉のテストの形と文のテストの形の結果は間違いが一番高い撥音、はねるおん「ん」のタイプは同じである。しかし、言葉のテストの形と文のテストの形の結果は間違いが一番低い撥音、はねるおん「ん」のタイプが違うである。言葉のテストの形に間違いが一番低い撥音、はねるおん「ん」のタイプは[ŋ]音であり、文のテストの形に間違いが一番低い撥音、はねるおん「ん」のタイプは[n]音である。文のテストの形に[n]音のタイプはかたかなで書いたため学習者はちょっと読まないこともある。

図 5.一番難しい撥音、はねるおん「ん」

撥音のタイプ	答えのカテゴリー	合計	パーセント
[m]音	撥音、はねるおん「ん」まだ学習 していない	3	14.29%
[n]音	-	0	0
[ɲ]音	撥音、はねるおん「ん」まだ学習 していない	1	4.76%
	練習	1	4.76%
[ŋ]音	-	0	0
[N]音	-	0	0
[Ń]音	撥音、はねるおん「ん」まだ学習 していない	12	57.14%
	練習	1	4.76%
	理由書いてない	3	14.29%
	合計	21	100%

アンケートの結果で原因は学習者は撥音、はねるおん「ん」という発音のタイプがまだ勉強していない。そして、撥音、はねるおん「ん」のタイプの中で学習者にとって一番難しい撥音は[N]音と言う発音である。

5. おわりに

ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科 2015 学年度 1 年生 A 組は間違いが一番難しい撥音、はねるおん「ん」は[N̥]音のタイプである。正しい撥音、はねるおん「ん」が言えない原因は学習者は撥音、はねるおん「ん」という撥音のタイプがまだ学習していないことである。

問題点として、テストを書くときローマ字で書いたほうが良い。なぜ画と言うと学習者は問題を読みやすいと言うことである。そして、教師はクラスの中で撥音、はねるおん「ん」を教えたり、たくさん練習したりしたほうが良い。

6. 参考文献

Karima, Rahil.(2014).*Analisis Kemampuan Pembelajar Bahasa Jepang dalam Pelafalan Konsonan Nasal N*. Bandung: UPI

Sutedi, Dedi. (2009). *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: humaniora

Wahyuni, Yuli. (2009).*Analisis Kesalahan Pelafalan Bunyi Bahasa Jepang Melalui Dikte*. Bandung: UPI

Wahyuni, Yuli.(2011). *Efektifitas Pendekatan Audio Lingual pada Pengajaran Hatsuon: Studi Pra Eksperimen terhadap Siswa SMKN 1 Katapang Kelas XII tekstil 1*. Bandung:UPI

中野野清. (1966) . 『わるい発音のなおしかた』日本：日本書籍

国際交流基金日本語国際センター. (1989). 『発音』日本：国際交流基

向井直子. (1998) . 『みんなの日本語初級 I 本冊』にほん：スリーエネットワーク

日本語交流基金. (2009) . 『音声を教える』日本:国際交流基金